

令和5年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報 告 地 区：札幌地区
- 2 事例報告学校名：札幌市立小野幌小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 森 井 由 見
- 4 キーワード：地域との連携を大切にした教育活動

1 はじめに

本校は今年度開校125年目を迎え、現在19学級（特別支援学級2を含む）、512名が在籍している。国道12号線、南郷通といった大きな通りに囲まれ、地下鉄新さっぽろ駅も徒歩圏内であることから、地域の様々な施設を学習材料として活用している。明治32年に開校以来、地域とともに発展してきた歴史ある学校で、親子三代が通っている家庭も少なくない。校地内には池を中心に100本以上の木々がそびえる「学習公園」があり、季節の変化を楽しむとともに子どもたちの貴重な学習の場となっている。

2 「つながる」をキーワードにした学校経営

令和5年度は学校重点目標を「笑顔つながる あったか・安心・小野幌」、実践目標を「自分でつなぐ、みんながつながる子」と設定し、子どもも教師も、保護者も地域も「つながる」をキーワードに、子どもたちが安心できる居場所としての学校づくりを目指している。学年・学級経営はもちろんのこと、今年度は校務分掌でも各部が連携しながら教育活動を計画・運営していくことができる組織を編成しており、各部が分担で動くのではなく、活動のねらいに沿って役割意識で動くことができる職員集団となっている。



3 地域力を生かした教育活動

(1) 地域学校協働活動推進事業による「みどりの活動」

地域学校協働活動推進事業（旧サタデースクール）と連携し、全校でじゃがいも栽培の活動を行っている。同事業のコーディネーターである本校同窓会長の自宅に隣接する畑をお借りし、種芋の植え付けから始まって、雑草抜き、じゃがいもの収穫までを子どもたちが行う。収穫したじゃがいもは各自が持ち帰るだけでなく給食メニューの食材として活用している。また栽培・収穫体験だけでなく、「食育」活動の一環としての意図もあり、給食のフードリサイクル堆肥を利用したり、栄養教諭からの事前指導の時間を設定したりと、食について見直していく学習にもつなげている。この活動にはPTAも積極的にに関わり、畝切りや収穫の補助として多くの保護者ボランティアが参加し、協力して学びを支えている。



(2) 学校開放図書館の活動

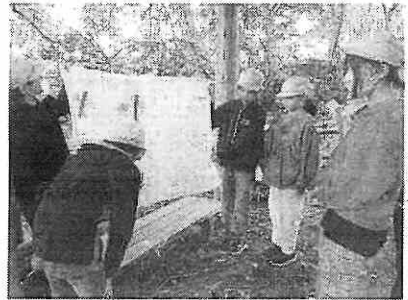
本校学校開放図書館には3名の開放司書と、10名ほどの図書ボランティアが所属している。本校児童の保護者だけでなく、卒業生の保護者や地域の方々もこのスタッフの中には多く、季節ごとの図書館の装飾や卒業生へのしおりプレゼント作成など、積極的な取組をしている。今年度は新しくボランティアに参加してくださる地域の方が増え、「子どもたちのために」とアイデアを出しながら和気あいあいと活動をしている。中でも今年度は「中休みお話タイム」と称し、ボランティアさん手作りの大型絵本や紙芝居を子どもたちに読み聞かせる機会を多く開催している。



子どもたちはこの「お話タイム」を心待ちにしており、目をキラキラと輝かせながら物語の世界に浸っている。「子どもたちが一生懸命聞いてくれてうれしい。本好きな子が一人でも増えてくれたら。」という思いが子どもたちとつながる時間である。

(3) 「ふれあい交流館」指導員による総合的な学習の時間の活動

本校には「学習公園」と呼ばれる自然豊かな庭があり、長年に渡り学習の場として活用している。4年生がたくさんの種類の本々の中から自分のお気に入りの1本を見付け、「ネイチャーガイド」と題して3年生にガイドツアーをするという学習である。この学習に欠かせない人材が、野幌森林公園内の「ふれあい交流館」指導員である。子どもたちにとって身近な野幌森林公園についての知識と、学習公園内にある木々の名前や特徴を子どもたちに分かりやすく教えてくれている。地域の教育資源を活用した伝統の学習は、子どもたちにとってわくわくする時間となっている。



4 地域でつながる交通安全・防犯への取組

(1) 子どもたちの登下校を見守る

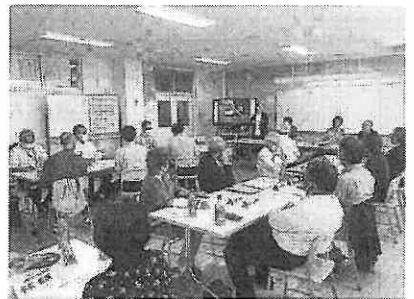
本校は国道12号線を渡ってくる児童や、指定変更を受け校区外から通う児童も多く、登下校時の交通安全や放課後の防犯に対する保護者や地域の方々の意識は非常に高い。毎朝、交差点に立ち、子どもたちの安全を見守ってくださる交通指導員の方々は、子どもたちにとっても大切な存在となっている。「おはよう。」「気を付けてね。」などと声を掛けてくださるだけでなく、登校時間に少し遅れ足取りの重い子どもに、「一緒に行こうね。」と声掛けし、玄関まで子どもの歩調に合わせながら送ってくださる。子どもたちもそんな交通指導員さんが大好きで、うれしかったことやちょっとした悩み事を打ち明けられる貴重な大人なようだ。



また、下校時は地域の各町内会、老人会の方々が手厚く見守りをしてくださっている。今年度は、スクールガード登録者が30名を超すほどとなった。たくさんの地域の方の温かい関わりで子どもたちの安全が守られていることに感謝したい。

(2) スクールゾーン実行委員会・青少年健全育成推進委員会の取組

コロナ禍には会同することができなかったこの会も、昨年度からようやく皆さんで顔を合わせながら意見交流することができるようになった。今年度の第1回スクールゾーン実行委員会には、関係機関の参加者を含め構成員33名のうち29名という高い出席率で、大変活発な意見交流が行われた。校区内危険個所の写真を見ながら、参加者が気付いたことや今後の改善すべき点がいくつも出された。その中で、大きな公園の入り口に「危険！飛び出し注意！」の立て看板を作成してはどうかという意見が出された。この意見をスクールゾーン実行委員会だけで終わらず、構成員の重なりが多い中学校区の青少年健全育成推進委員会でも議題に挙げ、関係各所が連携しながら子どもたちの安全を考えていく取組が実現している。



5 おわりに

125年の歴史ある本校は、「子どもたちを守ろう、育てよう」という保護者や地域の温かな雰囲気にあふれている。そのような環境下でのびのびと育つ、素直で優しい子どもたちの学びと笑顔がつつながる、あったか・安心な学校教育の推進に今後も努めていきたい。